かぜ・そら・たいようぐみだより 1がつ

新しい年が明け、久しぶりに友だちと会えてとても嬉しそうな子どもたちでした。「おもちたべたよ!」「おじいちゃん、おばあちゃんのところいった!」と冬休みにあったこと、楽しかったことを話す姿がありました。今年度も3月まで残り少しですが、今のクラスで過ごす日々を一日一日大切に、元気に過ごしていきたいと思います。

2021.1.29 円町まぶね隣保園

たいようぐみ

★帽子作り　雪あそびの日にみんなでかぶろうね!とゆび編みを始めました。子どもたちからは、"ほんまにつくれるん?" "えっ!どうやってで"などと興味いっぱいの姿もあれば、"なんかむずかしそうやな"と少し遠目で見ている姿もあります。いざ、やり始めてみると、楽しくて、どんどん編み出します。長くなっていくにつれて"できてるんだ"と実感しより気持ちも入ってきます。そんな中苦手意識が強く、呼び掛けても、なかなか行動を移せない子どもの姿がありました。"ぜったいやらない" "せんせいがやって"の一点張りです。周りが編み終わっていくことは見ていて、"やりたいな…でもできないかも" "うまくいかなかったら…"となかなか一歩を踏み出せず毛糸とにらめっこの毎日です。担任としても無理強いはしたくなかったので、その子どものやろうとするタイミングを待とうと決め、きっかけ作りを考えていました。雪あそびの2週間前となり、いよいよやらなければ間に合わないという時、いつものように、"やろう!"と誘うも、"いやだ" "やらない"とはっきり伝えます。"見るだけでいいから、先生も一緒にするから"と話すと、この日は"ちょっとやってみる"と保育者のそばに来ていました。一緒にしてみると、"出来た" "楽しい"を身を持って感じ、それからなんと2日で編み上げるという集中力でした。そばで見ていた子どもたちも共に嬉しく"これで、みんなでかぶれるなぁ"と手を取り、喜び合う姿がありました。なぜ、この日はやろうと決めたのか?この日までに保育者に限らず、色んな子どもたちからの働きかけがあり、"やってみよう"と気持ちは少しずつ大きくなってきていました。後は自分の気持ち次第、目を背むけてばかりではいけない、今日こそは、と思えたのだと思います。

そら組からたいよう組へと年齢が上がるにつれ、得意、不得意、また苦手意識がより明確になります。また、そのものの出来上がり具合もとても気にします。完璧にすることを目標とするのでなく、まず"興味をもつこと" "楽しむこと"を一として、活動を進めています。絵や作品を見て、"○○ちゃんのほうがじょうずやわ" "○○のはあんまりやわ"とつぶやくことも少なからずあります。それぞれの子どもの表現の仕方は自由であり否定されるものではありません。"じぶんはこんなことできる" "すごいんだ"と自分を認め、自己肯定感を高めていくことが大切です。また、色んなことへと視野を広げ、やり遂げたいと思う力をつけて欲しいと願っています。

★もうすぐ…

クラスで小学校の話を少しずつしています。"○○は○○しょうがっこうにいくで" "もうランドセルとどいてん"など学校の話をする姿が多くなってきています。"がっこういったらな、べんきょういっぱいするねん" "○○ちゃんとはなれるのがさみしい"などと話し合っています。楽しみにしている反面、不安を感じている子どもたちです。つい、この時期は"そんなんしてたら、一年生になれないよ" "一年になるしちゃんとして"など大人も学校に向けての内容ばかりになりがちではないでしょうか?小学校は保育園と環境ががらりと変わるので、その事がストレスになったり、不安が大きくなったりすると思います。子どもたちが就学する事を楽しみに思えるよう、また子どもが期待を持てるような大人の働きかけになることが大切です。

そらぐみ

◎手作りぐるぐる凧

お正月あそびでぐるぐる凧を作りました。円形に切った色画紙に子どもたちがペンで自由に描きます。「こんなふうにかいたらどうなるやろ?」「かわいくする!!」とそれぞれ楽しんで描いています。描いた後は保育者が描いた切り取り線に沿ってはさみで切っていきます。慎重にゆっくり切り進める子どももいれば、大胆に切っていく子どももいます。曲線なので難しく、「むずかしい~」と助けを求めたり、補助が必要であったりする子どもは、保育者と一緒に最後まで真剣に切り進める姿があります。「きれた~!」「ながーい!」「へびみたい!」と、さっきまで円形であった紙がぐるぐると渦巻く長い1本の紙に変身し、興奮していた子どもたちです。糸をつけて、早くぐるぐる凧が完成した子どもは待ちきれず、室内を少し走ってくるくる回るのを試しています。鹿垣公園へ行き、全力で走ります。くるくると凧がまわり、「まわってる~!」「みててや~!」と、とても嬉しそうな子どもたちです。自分の凧がまわるのが嬉しくて、息をきらして何往復も走っていました。

◎仲良しあそび「貨物列車」

園庭あそびの後、保育室で「貨物列車」をしました。友だちと同じ場所にいてそれぞれ好きな遊びを楽しむことはあっても、以前はみんなで1つの遊びを楽しむことがなかなかまだ難しかったです。フルーツバスケットやいすとりゲーム、貨物列車などクラス全体でみんなで楽しんで遊ぶ場面が少しずつ多くなってきました。先日の貨物列車では友だちと連結して歩くこと、友だちを見つけじゃんけんすること、車輪の手振りをつけて歩くことなど、歌を口ずさみ楽しみます。じゃんけんをくり返すごとにどんどん列が長くなっていく様子に笑顔が溢れていました。先頭になりたくて、じゃんけんに負けたのが悔しくて涙する子どももいます。最後は長い一列のそら組電車になり、とても嬉しそうな子どもたちでした。みんなで楽しいと感じる瞬間を共有できるような場面をこれからも沢山作っていきたいと思います。

◎「今日」「明日」などの認識について

5歳頃になると話言葉の中に「昨日」「今日」「明日」「去年」「来年」といった言葉がよく出てくるようになってきます。過去は全部「昨日」であったり、未来はすべて「明日」であったりします。「今」を基点として、その前とその後で時間を捉えているようです。徐々に「明日」と「あさって」の区別をするようになり、経過していくものとしての認識を自分のものにしていきます。日々の生活の中で、「昨日の遊びが楽しかったから今日もしよう!」と自らの生活の実感と結びついた時間の理解が大切です。また、「前はできなかったけどできるようになった」と自分自身についても「過去」「今」「未来」で捉えられるようになっていきます。一人ひとりの子どもの育ちに目を向けると同時に、子どもたち自身が大きくなった自分、変わってきた自分を実感できる場面や経験を大切にしていきたいと思います。

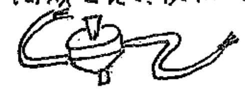
かぜぐみ

お正月あそび

(こま) 自分のこまに、指を使って絵の具を塗りました。指先に絵の具をつけて、こま全体に塗る子どもや、指先で点々にして模様にする子どもがいます。出来上ったこまの持ち手を両方の手のひらにはさんで回します。だんだんと勢いをつけて回すようになり、友だちと回しっこをしたり、きのこ回し(反対向きに回す)をしてみたりして楽しんでいました。

(羽根つき) 天井からぶら下げた、新聞紙を丸めて作った羽根を、ダンボールの羽子板で打ってあそびます。羽根が、ぶら下っているので、当てやすく、打っては、戻ってくる羽根を何度も打ち返し、当たるたびに、「やったー」と大喜びでした。

(ふく笑い) 目隠しをして、顔のパーツを置きます。保育者が、「目」「鼻」…と渡していくと、すぐに置く子ども、どこに置くか迷って置く子どもがいます。次は、友だち同士でもあそび、友だちに、パーツを渡してもらって置きます。友だちが「そこちがう!」「目はここやで!」とついつい直してしまうこともありました。目隠しを取って、でき上った顔を見て、友だちと大笑いしていました。



収穫

秋に植えた水菜が、大きくなりました。みんなで、水やりに行った時やあそびに行った時に、「あっ大きくなってる!」とうれしそうにしています。収穫の時になり、「みんなで、取りに行って食べよう」と言うと、「ワーイ!」と大喜びです。友だちと一緒に、水菜を引っぱりますが、なかなか抜けません。2~3人ずつ交替で引っぱって、やっと抜けました。みんなで給食室に持って行く時は、「いつ食べるの?」「ぼくが(わたしが)持っていく!」と、うれしそうで、水菜を洗っている時も「うわあー、すごい、まっくろや」と根についた土を取って「お願いしまーす」「これ作ってー」と渡していました。そして、給食の時に、かつお和えにしてもらって食べました。

自分でできた!

自分で、汚れ物を入れてくくったり、リュックの中に入れたり、戸外に行く時は、ジャンパーを着たり、身の回りのことをするようになってから、だいぶたちました。初めは、どうするのか分からず、「先生わからへん」「やってー」「手伝ってー」と、保育者を頼って、手伝ってもらう子どもたちです。毎日繰り返すことで、段々とコツをつかみ、1人で、汚れ物入れをくくって、リュックに、入れたり、ジャンパーのファスナーを自分で、上げたりするようになってきました。今では、「先生できた!」「ひとりで、くくれた!」「自分で、チャックできた!」「見ててな!」少しでも手伝おうとすると「自分でする!」と得意気に身の回りのことをしています。そして、保育者が、手伝うこともほとんどなくなってきています。当番活動は、給食の時、1人でみんなの前に立ち、献立てを言ったり、お祈りをしたりしますが、今では、声の小さかった子どもも、みんなに聞こえるくらい大きな声で自信たっぷりで言っています。何に対しても繰り返して積み重ねる経験をすることで、大きな自信に繋がり、達成感を味わって生き生きしている子どもたちでした。